

# 大学の産学官連携施設における効果的な整備手法の調査研究報告書（概要）

■ 「第5期科学技術基本計画（平成28年1月22日閣議決定）」及び「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成28年3月29日文科科学大臣決定）」において、地域との連携、産学官連携の重要性が明示されていることから、地方創生・イノベーション創出の基盤となる大学の産学官連携施設について、事例調査を行い、整備による効果や運営体制、施設マネジメントの取組などを分析し、今後の産学連携施設の推進に資するための資料としてとりまとめた。

## 事例紹介(掲載の一部)

### 千葉大学

#### サイエンスパークセンター

産学官連携面積：1,257㎡

（医工連携、ロボティクスを中心に）  
産学官連携を行い、地域産業のイノベーション創出を図る



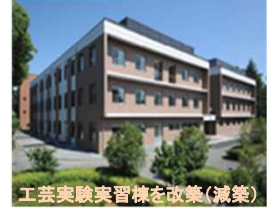
エネルギーセンターを改修

### 京都工芸繊維大学

#### 15号館

産学官連携面積：1,132㎡

（地元産業界・教育委員会と連携し、  
京都の伝統・技術等の学修の充実  
と人材育成等を図る）



工芸実験実習棟を改修(減築)

### 三重大学

#### オープンイノベーション施設

産学官連携面積：389㎡

（地域の天然資源を活用した高付加  
価値食品の製品化を促進し、地域  
の食品関連産業界の活性化を図る）



建物内部2,3階を改修

### 広島大学

#### ひろしま医工連携・先端医療イノベーション拠点

産学官連携面積：581㎡

（県・大学・中国経済連合会が共同  
で整備し、研究開発能力の向上、  
人材育成を図る）



中央設備棟を改修

## 事例から見える施設担当部署の参画時期と役割

### 【参画時期】

構想段階から参画して利用者のニーズを施設計画に適切に反映

- 関係者と産学官連携施設の目的や役割等について情報を共有。
- 研究者、企業に施設活用におけるニーズ調査を行い、導入機器、施設規模の設定等に関与。

### 【役割】

導入機器に合わせた施工方法の検討や施設マネジメントによるスペース配分

- 学内の他施設との研究に係る役割分担を調整し、既存機器を考慮した上で新たに導入すべき機器を検討。
- 導入機器の情報をもとに構造的条件や必要規模等を勘案し、施工方法を検討。
- 改修の場合、既存施設を利用している研究者の研究の継続に配慮し、他の施設にスペースの確保を行う施設マネジメントも必要。

## 事例から見える整備計画等の留意点

留意点と事例との関係（掲載の一部）

	千葉大学	三重大学	京都工芸繊維大学	広島大学
研究開発機能の集積		○	○	○
研究活動の継続性の確保		○	○	
研究活動種別ごとのフロアゾーニング	○			○
研究空間と交流空間との融合		○	○	○
フレキシブルな空間構成			○	
セキュリティの確保	○			
研究者・企業のニーズ把握	○		○	○
トップマネジメントによる全学的な体制の構築	○	○	○	○
PDCAサイクルによる持続的な維持管理			○	○

### 研究開発機能の集積

効率的に研究活動を行うために、産学連携施設の配置は関連する機能が集積しているエリア及び施設内に整備するよう配慮

### 研究活動の持続性の確保

改修の際は既存施設利用者の研究活動を継続させることに配慮し、スペースや再利用機器等の仮置き場所を施設マネジメントにより確保

### 研究活動種別ごとのフロアゾーニング

導入機器の大型化、騒音・振動、排水設備の有無など様々な制限があるため、周りの研究活動に支障のないようにフロアゾーニング計画を配慮

### 研究空間と交流空間との融合

研究者同士の交流を促進したり、打ち合わせ等が可能なコミュニケーションスペース等の確保

### フレキシブルな空間構成

プロジェクトの変化や多様な研究活動に対応できるよう将来的な変化を見込んだフレキシブルスペースを確保

### セキュリティの確保

多様な共同研究や企業による新技術の開発などが行われているため、利用者の管理や情報セキュリティに配慮

### 研究者・企業のニーズ把握

導入機器の効率的な配置やそのために必要なインフラ整備やフロアゾーニングを計画するために利用者のニーズを把握

### トップマネジメントによる全学的な体制の構築

実効性のある施設整備、維持管理計画を進めるために、学長をはじめとする経営者層のリーダーシップによる全学的な体制を構築

### PDCAサイクルによる持続的な維持管理

研究発展のためには、施設利用者のニーズを調査し、研究環境等の満足度や課題等を分析し、維持管理の方法を評価・改善し、新たな維持管理計画に適切に反映